

各種委員会行政視察報告

議
会
運
営

議会運営委員会は11月12日～13日に宮城県蔵王町議会と山形県庄内町議会を訪れ行政視察をおこなった。

蔵王町議会では、議会運営と通年議会について視察を実施。平成19年7月、議会運営委員会で議会運営の改革を行うため検討を開始し、平成20年12月定例会より一般質問に対し反問権を制度化したが、実際には首長等からの質問権となっている。さらに同定例会で通年議会のために定例会を年1回とする条例改正を可決、議会召集は年1回で1月5日に召集し、12月28日までの358日間、本会議は今まで通り年4回開催し

ている。利点はいつでも議長召集により議会を開ける、欠点は節目がなくなり緊張感が失われるし、職員の負担も変わらなかつたとのことである。注目すべきは平成21年4月に5日間議会報告会を3班編成にて実施していたことであった。

庄内町議会では、議会運営と議会基本条例について視察した。一般質問の20年度実績は平均19分の16人程度で定例会ごとに14～18人質問していた。再質問から1問1答方式をとっており、さらには質問者席を議員席の中央に置き対面方式をとっていた。

議会基本条例は理念（指針）を中心に8条と必要

最小限に留めており、議員の活動原則及び役割を明らかにし、町民に信頼され、より存在感のある議会を築くために制定したものであった。もちろん議会報告会も行われていた。



蔵王町での研修風景

総
務

当市が現在進めている第三セクターの見直しについて、他の自治体の状況を研修す

るため、11月下旬に熊本県菊池市、小国町、山鹿市で行政視察を実施した。菊池市には8つの第三セクターがあり、全て法人（株式、有限）化されていた。そのうち道の駅泗水について紹介する。本年度事業方針の一部に「収益活動と公益・公共活動との両立を目指し、住民と共に地域づくりに参画する」という文言があり、実際に多彩な農家支援やイベントを通じて生産者、消費者、地域住民へ働きかけ売上増につなげ、利益を前述の3者に還元する好循環ができていた。当市の第三セクターでも大い

に取り組むべきと感じた。山鹿市では、黒字である第三セクターの更なる充実を図るため、H18年に経営診断業務、H19年に経営診断フォローアップ及び業務・マネジメント監査業務を外部委託し、更に市自身もH20年に第三セクターの自立経営を図るための措置に関する方針を策定しH18年からの3年間集中的に見直しをした。当市でも見直しは集中的に行うべきと感じた。



道の駅泗水での研修風景
しずい